

## 10.24 毎年継続して反原子力デ－行動に取り組む 中間貯蔵・リラッキング・プルサーマル計画などの中止を

反原子力デ－の行動として、10月24日関電本社と交渉を行いました。これは毎年若狭ネットが関西の反原発グループとともに継続して取り組んでいるものです。

関電側は広報3名が対応し、若狭ネットとチェルノブイリ・ヒバクシャ救援関西が申し入れを読み上げ交渉に入りました。若狭ネットは其中で、次の点を要求しました。

大飯・美浜原発での55000MWd/高燃焼度運転計画・原発の長期連続運転・昼夜突貫工事や定検項目削減などによる定期検査短縮の中止。厳重かつ徹底した定期検査の実施。今年度下半期に予定されるガラス固化体の六ヶ所村返還の中止。高浜原発でのリラッキング計画の設置変更許可申請取り下げ。一切の使用済み核燃料中間貯蔵施設計画の中止と計画地点の公表。4月に社長自ら公言した、MOX燃料加工の年度内契約を行わないこと。高浜3・4号のプルサーマル計画断念。敦賀3・4号からの受電計画中止と日本原電に派遣中の社員の引き上げ。運転開始から30年以上経過した、美浜1号・2号の稼働中止。珠洲原発新設計画から即刻手を引くこと。関西や福井県の小中高校への講師派遣や原発見学、資料提供などはたらしかけを一切行わないこと。電力消費をあまりこれを促進する、オール電化ハウスの販売とテレビ・新聞等での宣伝中止。使用済み核燃料の六ヶ所再処理工場搬出反対。六ヶ所再処理工場の運転中止を政府と日本原燃に勧告すること。原発全面停止と原発・核燃料サイクル政策抜本的転換の日本政府への勧告

関電側は、最近自らの原発で続発する蒸気漏れ事故やトラブルについて、まだ発表したばかりでくわしくは聞いていないなどと平然と答え、あいも変わらず原発事故を軽視する姿勢に終りました。

なお、関電が前日23日に発表し、経産省・福井県・高浜町に報告した「海外MOX燃料調達に関する品質保証活動の改善状況について」に関しては、これでBNFL問題は済んだと思っているのかと聞くと、「地元には説明する」と返答しました。

私たちは、BNFLのMOX燃料データ改ざん事件後、関電が掲げていた新MOX燃料契約に向けた次の3つの課題を確認しました。

1. BNFLのデータ改ざん問題について、再発防止策が英国と日本で認められること。
2. 社会的に理解が得られること。
3. 高浜原発にある8体のMOX燃料を英国に返還すること。

3の返還問題では、返還に反対する地元の声を無視して強行した点を追及しました。

「改善状況について」は、関電自らがBNFLのMOX燃料製造工程がペレットを作り込む工程になっていなかったと以前認めていた点を無視して、単なる社内体制の改善だけで事を済ませようとする姑息な報告書です。しかもMOX燃料ペレットの計測データの平均値の分布が大きくバラついており異常で、私たちが事件発覚直後1999年9月29日それを指摘したのに、関電側が理解できなかったという決定的事実にも全く触れないものであり、関電のご都合主義に基づく作文です。

燃料ペレットの高燃焼度、脆性遷移温度、亀裂の検出精度等について関連する質問項目も同時に提出し、後日関電から本社で回答する旨の電話連絡がありました。

電事連の公表した核燃料サイクルのコスト見積り問題も含め、12月19日再度交渉を行います。中間貯蔵やリラッキング、プルサーマル計画を一切許さぬため、ともに関電を追及して行きましよう。